

「ダボス会議で示唆された水資源の問題」

受託運用部:高鍋 朗

世界のエグゼクティブにとって、年初の仕事は共通だそうである。スイスのスキーリゾートに行き、マスコミの前で、世界経済に対する深い懸念を表明すること、これが出来ることがある意味、世界で有数の企業家、政治家としての証であるそうである。3ヶ月程前のことであるが、今年も1月下旬のスイスのスキーリゾートに世界の首脳、経済エリートが集結した。そうダボス会議のことである。毎年世界政治経済に関するテーマが設定され、世界の政治家・企業家のトップが集まりセッション毎にパネルディスカッション、講演を行う一大イベントである。今年のテーマは「移行する力の均衡点」。それは経済の成長力点が新興諸国に移行することに対する先進国のあせりをも感じさせる表題である。ただ、そのテーマとは別に話題になっていたものが、1月のスイスでスキーが出来ないことにも象徴されていた「環境問題」であった。

環境問題といえば「京都議定書」で設定されたCO2削減問題が危急の話題であるかのような捉え方が、先進国の暖冬により加速した感があるが、その結果として、バイオエネルギーに関する強気の見方が増えている。

それは環境問題とエネルギー資源枯渇という資源問題を一挙に解決する良薬としてのバイオエネルギーに対する注目度の向上と、米国を初めとするバイオエネルギー促進政策の賜物といった感がある。次のページの図1を見て欲しい。上段の農業化学株指数と言うのは除草剤に耐性を持つ遺伝子組み替えトウモロコシ、大豆の品種の種子を販売する企業などが含まれる株価指数である。以前は欧州や日本の遺伝子組み替え食料に対する反対意見により、低迷したこともあったが、それがバイオエネルギーという視点で再注目されてきたといっても過言ではない。その株価は主力商品であるトウモロコシ、大豆の現物価格とほぼ連動した株価になっていた。ところが、ここ数週間、トウモロコシ価格が豊作と在庫増の影響で低迷しているにもかかわらず、逆行高となっている。これは当然ながら、種子販売で決算好調なファンダメンタルズを反映したものに他ならないが、60ドルを超えてきた原油高と共にどうも昨今のバイオエネルギーブームと関連がありそ

うである。このままこういった株価にフローウインドが吹き続けるのであろうか。

ダボス会議の席上、世界のトップの食品メーカーであるネスレ会長からこんなコメントがあったそうである。「もし水資源の問題が解決しなければ、バイオ燃料についても再考する必要がある。」

バイオエタノールは主にトウモロコシとさとうきびから作られるが、米ミネソタにあるエタノールプラントでは1ガロン(約4リットル)のエタノールを作るのに3.5ガロンから6ガロンの水を必要とするそうである。ここ10年間でエタノール作成のために使用された水の量は3.5倍となったそうである。一方で、食料資源の足りないインドはさとうきびから直接エタノールを作るのを禁止、砂糖を作ったあまりから作るよう指示しており、400もの都市が深刻な水不足に悩まされているとされる中国は政府がトウモロコシからエタノールを作るプロジェクトに待ったをかけているそうである。

またバイオエネルギーブームは別の方面でも波及を及ぼした。トウモロコシで作られる主食のトルティーヤの値段が2倍以上に上昇したことを受け2月メキシコでデモが起こった。

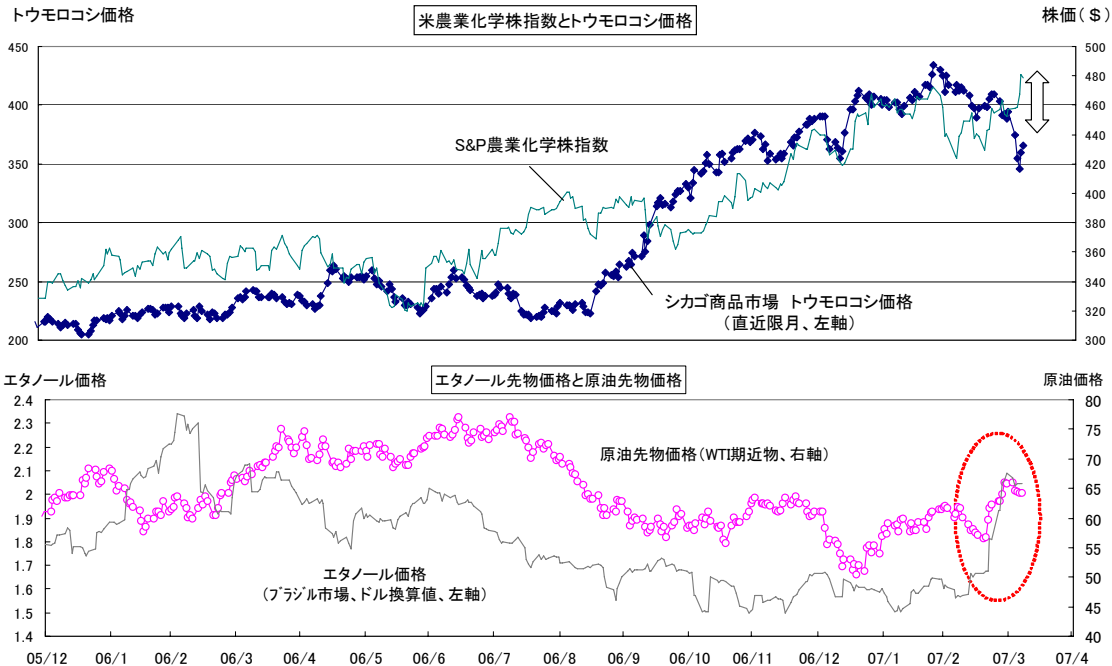
結局、暖冬による原油安+地球温暖化懸念・環境問題→バイオエネルギーブーム→穀物急騰→各種問題(水資源、食料)→穀物安、原油高と堂々巡りをしてしまった。

エマージング投資の一人者ジム・ロジャースも中国の今後の成長には強気であるが、唯一リスクがあるとすれば水不足問題であると言っている。翻って、水資源が一般的には豊富にあるとされるわが国の場合も、輸入される食料で換算される間接的な水の輸入量は自給分を超える水準であるそうだ。「21世紀は水で戦争が起こる」と言ったのは元世銀副総裁のイスマイル・セラゲルディン氏であるが、世界経済の持続的な成長に対する制約条件として、エネルギー問題、環境問題に加え、食糧問題も絡めた水資源の問題も欠かせない。

(2007年4月19日記)

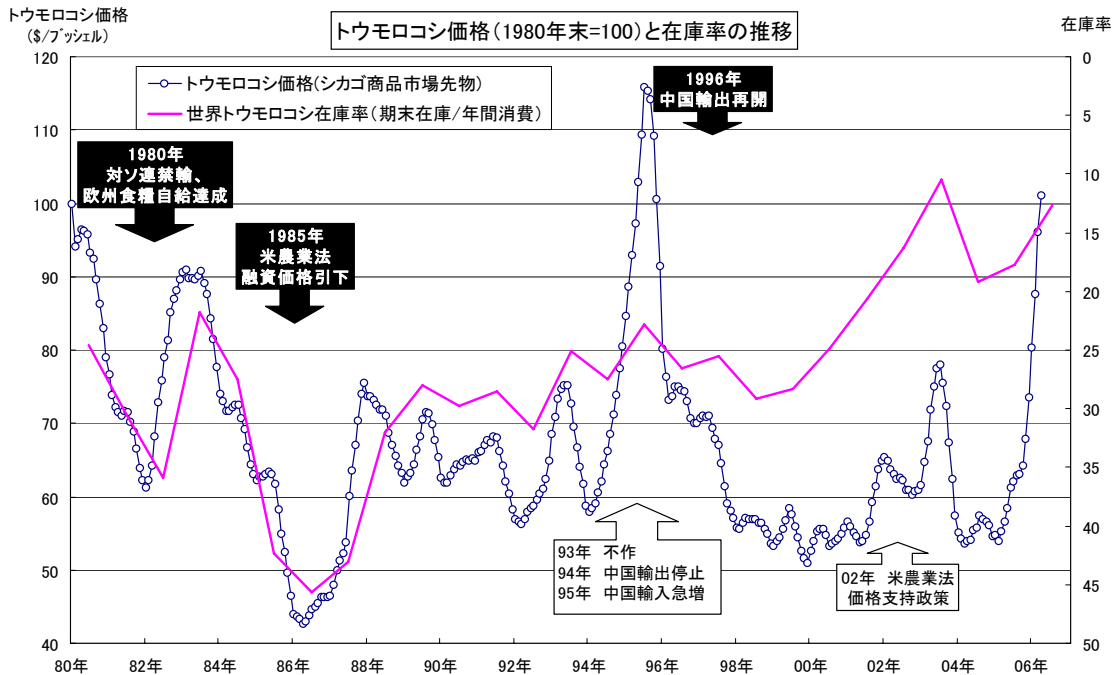
<図表：ダボス会議で示唆された水資源の問題>

○図1：農業化学株指数とエタノール価格



出所：Bloomberg より三菱UFJ信託銀行作成

○図2：トウモロコシ価格と在庫率の推移



出所：Bloomberg、米農務省データより三菱UFJ信託銀行作成

◇ 本資料は、当社が投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
 ◇ ここに記載されているデータ、意見等は当社が公に入手可能な情報に基づき作成したものです。その正確性、完全性、情報や意見の妥当性を保証するものではなく、また、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら保証するものではありません。
 ◇ 本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、経済環境の変化や相場変動、制度や税制等の変更によって予告なしに内容が変更されることがありますので、予めご了承下さい。
 ◇ 当社はいかなる場合においても、本資料を提供した投資家ならびに直接間接を問わず本資料を当該投資家から受け取った第三者に対し、あらゆる直接的、特別な、または間接的な損害等について、賠償責任を負うものではなく、投資家の当社に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されていることを前提とします。
 ◇ 本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

本資料について

- 本資料は、お客さまに対する情報提供のみを目的としたものであり、弊社が特定の有価証券・取引や運用商品を推奨するものではありません。
- ここに記載されているデータ、意見等は弊社が公に入手可能な情報に基づき作成したのですが、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性を保証するものではなく、また、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら保証するものではありません。
- 本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、経済環境の変化や相場変動、制度や税制等の変更によって予告なしに内容が変更されることがありますので、予めご了承下さい。
- 弊社はいかなる場合においても、本資料を提供した投資家ならびに直接間接を問わず本資料を当該投資家から受け取った第三者に対し、あらゆる直接的、特別な、または間接的な損害等について、賠償責任を負うものではなく、投資家の弊社に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されていることを前提とします。
- 本資料の著作権は三菱 UFJ 信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。
- 本資料で紹介・引用している金融商品等につき弊社にてご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には相場変動等による損失を生じる恐れや解約に制限がある場合があります。なお、商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料をよくお読み下さい。

編集発行：三菱UFJ信託銀行株式会社 投資企画部
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 Tel.03-3212-1211（代表）